

論文審査の結果の要旨

報告番号	博(医歯薬)甲第 295 号	氏名	奥川 剛志
学位審査委員	主 査	中山 浩次	
	副 査	林 善彦	
	副 査	筑波 隆幸	
<p>論文審査の結果の要旨</p> <p>1 研究目的の評価 本研究の目的は、歯周病原細菌およびそれらのペプチドグリカンの NOD1、NOD2 活性化能について解析することである。合成リガンドを用いた研究は数多くあるが菌体を用いた研究は少なく、また、歯周病原細菌と NOD に関する報告はない。従って目的として十分に妥当である。</p> <p>2 研究手法に関する評価 精製したペプチドグリカンの定性解析をグラム陰性菌ペプチドグリカン特異的に反応する S2*レポーター細胞で行っている。更に NOD1、NOD2 に対する反応はレポーター細胞を用いて NF-κB の活性化で確認しており、ペプチドグリカンの活性を解析している。また、<i>in vivo</i>における NOD の役割を調べるために、口腔上皮 HSC-2 細胞を用いてペプチドグリカンによる IL-8 誘導能について ELISA 法で解析を行っており、研究手法も妥当である。</p> <p>3 解析・考察の評価 上記手法で解析した結果、歯周病原細菌の菌体およびペプチドグリカンは NOD1 および NOD2 を活性化し、また口腔上皮細胞を刺激し IL-8 産生を誘導した。従って、NOD は歯周病原細菌の認識に関与していると考えられる。しかし、<i>P. gingivalis</i> ペプチドグリカンの NOD 活性化能は他の歯周病原細菌に比較して低いものであった。<i>P. gingivalis</i> 菌株間に NOD2 活性化能に違いが認められているが、菌株に特有な病原性に関与している可能性もあり、これらの点について、今後の更なる研究の展開が期待される。</p> <p>以上のように本論文は歯周病学の研究に貢献するところが大きく、審査委員は全員一致で博士(歯学)の学位に値するものと判断した。</p>			